

北海協同組合通信

2024年2月26日(月)
第18309号

購読料：1カ年92,400円(消費税込) 日刊(土日祝日休刊)

発行 株式会社北海道協同組合通信社
発行人・編集人 高田 康一
〒060-0005 札幌市中央区北5条西14丁目1番15
TEL 011-231-5261 FAX 011-209-0534
E-mail: tusin@dairyman.co.jp
URL: <http://www.dairyman.co.jp>

今年度の農作業事故は1月末で死亡者8人・・・・・・・・・・3

2023年度農作業事故ゼロ運動推進研修会
年齢層は全て「60歳以上」と極端な傾向
過去10年間の事故発生状況の推移を総括

今年度の農作業事故は1月末で死亡者8人

2023年度農作業事故ゼロ運動推進研修会



道農作業安全運動推進本部と道は21日、札幌市の自治労会館で、2023年度「農作業事故ゼロ運動推進研修会」を開き、同本部事務局が道内における農作業事故の発生状況を報告。23年度は1月末までの死亡者数が8人と

現状では過去10年間で最も低い一方、年齢層は全て60歳以上とこれまでにない極端な傾向が表れた。

報告によると、23年度の農作業事故による死亡者は1月31日現在で男性6人・女性2人の計8人となり、過去10年間で最も少なかった22年度(9人)と同水準で推移している。振興局別では十勝と空知が各2人、日高・オホーツク・後志・渡島は各1人となり、前年度に最多だった上川では発生していない。

一方、年齢層は全て60歳以上で平均年齢は78歳を超えており、事務局は「近年高齢者による事故は多発しているが、これまでなかった極端な傾向」としている。原因は全て農業機械によるもので、トラクタが3件、作業機が5件となっている。

○過去10年間の事故発生状況の推移を総括

事務局は北海道における農作業事故の発生状況について、過去10年間（2013～22年）の推移を総括した。

死亡事故は減少傾向にある一方で負傷事故は横ばいで推移。原因別の事故発生状況を見ると、死亡事故（157件）のうち農業機械によるものが75.2%（118件）と突出し、内訳はトラクタによる事故が45件と最も多い。また、負傷事故は家畜によるものが37.3%（8,175件）と最多で、そのうち「牛との接触」が8割以上を占めた。

振興局別の割合を見ると、死亡事故は農業就業人口の多い空知（19.7%）、上川（17.2%）、十勝（17.2%）で多い傾向となり、負傷事故は牛が原因の事故が多いことから飼養頭数の多い十勝（23.4%）、オホーツク（17.7%）、根室（10.5%）で多発している。

年齢層別の発生率に注目すると、負傷事故は若年層が高く、死亡事故は高齢者が高い傾向が出ており、事務局は「高齢者の事故件数は少ないものの、発生した場合の被害が大きいことが浮き彫りになっている」と説明した。

なお、北海道における農業者の労災保険特別加入者数（22年度）は、5万622人と前年度より2.6%（1,352人）減少。加入率は農業就業人口の減少に伴い19年度から上昇しており、69.0%と前年度から0.5ポイント上昇した。

このほか研修会では、厚労省道労働局や農研機構農業機械研究部門システム安全工学研究領域の積栄システムG長、幕別町の生産者・箕浦邦雄氏が、農作業安全をテーマに講演した。（日並 雄太）